

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

(別紙4)

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月26日

【評価実施概要】

事業所番号	871100160		
法人名	株式会社 ほ一むけあいしやま		
事業所名	グループホーム 搖搖		
所在地	常総市新井木町28-3 (電話) 0297-20-1010		
評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	水戸市千波町1918茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価確定日	平成20年1月9日

【情報提供票より】(平成19年8月5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年5月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤10人, 非常勤3人, 常勤換算6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての ~ 1階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	-
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(8月5日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1	要介護2	9
要介護3	4	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 81.9 歳	最低 60 歳	最高 99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 豊和麗病院	坂入医院
---------	------------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者と職員は基本理念を共有するとともに、家庭的で温かみがあり、安心して過ごせるケアを心がけている。
また、利用者と喜怒哀楽を共にするため、利用者に寄り添い、利用者の得意なことを学びながら、笑顔に包まれた生活を支援している。
ホームで終末期の看取りに取り組むことにより、職員の絆を一層深めるとともに、利用者や家族が安心できる環境を構築している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の課題となった、身体機能や意欲低下のある入居者への対応や興味工夫について、利用者の力量に応じて得意なことへの出番や声かけなどにより改善している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者とユニットリーダーで自己評価を作成し、前回の外部評価を踏まえて改善に取り組んだ。 外部評価受審で得られた新たな課題の発見や気づきをケアに活かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>市介護保険課職員・市社会福祉協議会職員・民生委員・区長・家族代表・管理者などを委員とした運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。 会議ではホーム運営上の連絡や相談を行うなど、意見交換を行っており、意見や課題をサービス向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族等から意見や要望を自由に記入してもらえるよう意見箱を玄関に設置しているが、活用するまでには至っていないので、無記名式の家族アンケートを実施し、運営に反映することを提案する。 毎月1回管理者から電話で利用者の近況報告を行うとともに、家族の面会時に利用者の状態等について報告・相談している。 また、手紙とともに医療費や出納帳の残高を報告している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎年8月末にホーム主催のバーベキュー会を開いており、区長を通じて近隣の方々に参加を呼びかけるなど、地域の方々と交流している。 また、地域の方々から野菜をいただいたり、散歩中に挨拶するなど、交流している。</p>

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設置法人の基本理念である「家族や地域のつながりを深めていくようなケアサービスを提供します」をもとに、基本理念を踏まえた独自の理念を作成し、サービスに活かしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回全職員が出席する合同会議で理念の共有をはかるとともに、実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎年8月末にホーム主催のバーベキュー会を開いており、区長を通じて近隣の方々に参加を呼びかけるなど、地域の方々と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者とユニットリーダーで自己評価を作成している。 外部評価の調査報告書を誰もが見られるよう玄関に掲示するとともに、新たな課題や気づきをケアやサービスの改善につなげている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市介護保険課職員・市社会福祉協議会職員・民生委員・区長・家族代表・管理者などを委員とした運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。 会議ではホーム運営上の連絡や相談を行うなど、意見交換を行っており、意見や課題をサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険上の連絡や助言を受けるほか、研修開催の情報を得ている。	○	利用者や職員の悩み、意見などを聞いてもらえるよう市の介護保険相談員の派遣等を依頼することを提案する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回管理者から電話で利用者の近況報告を行うとともに、家族の面会時に利用者の状態等について報告・相談している。 また、手紙とともに医療費や出納帳の残高を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等から意見や要望を自由に記入してもらえるよう意見箱を玄関に設置しているが、活用するまでには至っていない。	○	家族等から意見や不満を汲み上げる手段の1つとして、無記名式の家族アンケートを実施し、運営に反映することを提案する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はユニット間で行っており、異動した場合は、利用者と馴染めるよう管理者や職員が協力している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の研修は法人本部が、新人・中堅・管理者など、段階に応じた研修を企画し、職員が受講している。 また、必要に応じ、外部研修に職員を派遣している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	設置法人の運営するホームと交流しているが、同業者と交流するまでには至っていない。	○	設置法人の交流にとどまらず、地域内の同業者と職員交互の勉強会や訪問並びに交流する機会を設けるなど、ネットワーク作りに取り組むことを提案する。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者が安心してホーム生活を送れるよう、利用予定者が家族と一緒に宿泊体験ができる体制となっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意なことやできる事を把握し、調理の味付けや茶碗拭き、洗濯物たたみなどの役割を作っている。 また、利用者を把握するため、昔の体験談などを聞く時間を設けている。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の希望や意向を把握するため、こまめに声かけを行っている。また、家族等の意向も把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画はユニット会議を行い、利用者及び家族の意見・要望・職員の意見などを統合し、意向を反映して作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	短期計画は3か月、長期計画は6か月毎に利用者・家族の意見を踏まえて見直ししている。 見直した介護計画を家族等に説明し、押印してもらっている。	○	介護計画を見直しした際に、理解ができる利用者にも説明や確認のサイン等ができるよう取り組むことを提案する。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算、通所介護、短期利用型介護の指定等を取得し、利用者が安心してホームで生活することができるようまた、地域のニーズ等に対応できる体制を整備している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医が月2回訪問し、利用者の健康状態を確認するとともに、状態に応じた適切な支援を行っている。 また、歯科治療申込書を用意し、巡回治療を受診するなど、利用者の希望に添って支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りに関する対応指針の策定や同意書の様式を作成し、入居時に利用者・家族等に説明している。	○	看取りに関する同意書ばかりでなく、利用者が重度化した場合や終末期のあり方について指針を作成するとともに、入居時に説明、同意を得ておくことを提案する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりを尊重するとともに、利用者にあわせた丁寧な言葉かけや対応をしている。 また、利用者の家族と個人情報に関する同意書を取り交わすとともに、個人情報を鍵のかかる場所に大切に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に応じて散歩・ドライブを楽しんだり、買い物に出かけるなど、一人ひとりに合わせた生活を送れるよう支援している。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者一人ひとりの好みや力を把握するとともに、調理時の味付けや後片付け、茶碗拭きなどを一緒に行っている。 また、食後の後片付けや茶碗拭きなどを手伝ってもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にあわせて入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、縫い物や絵画など、毎日の暮らしの中に得意なことを取り入れ、楽しく暮らせるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の体調や希望にあわせて、散歩や買い物及び自然に触れる機会を設けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	設置法人で身体拘束廃止委員会を設置しており、職員全員が施錠しない支援に取り組むことを確認している。 施錠しない取り組みを実践するため、玄関の鍵は日中から遅出の職員が帰宅する夜10時頃まで施錠していない。		

☆この評価結果は、グループホームが自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日のホームの状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署に依頼して年2回の防災訓練を実施しているが、地域の方々の協力を得られるまでに至っていない。	○	地域の方々に声をかけて協力を依頼するとともに、災害時に備えて、水、レトルト食品と卓上型ガスコンロ及び鍋を備蓄し、防災訓練時に地域の方々に参加を依頼して、炊き出し等を実施することを提案する。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態にあわせて、刻み食やとろみ食などを提供している。 カロリー計算を管理栄養士に依頼し、栄養バランスに配慮した献立を立てるとともに、水分や食事摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日差し等はカーテンや障子で調整している。 食堂は掘り炬燵、テーブルに椅子、囲炉裏など利用者の好みの場所で気の合った利用者同士で過ごしている。 また、廊下には板でくぼみをつけた手すりを取り付け、利用者が使いやすい工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた馴染みの物を自由に持ち込み、なじみの品に囲まれて安心して暮らしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。